

リスク管理

金利・為替リスクは、金利や為替レートの変動により企業の財務状況に影響を与えるリスク、すなわち、すでにバランスシートにある資産・負債価格の変動や将来の収益・費用額の変動という財務に直接影響を与えるリスクである。金利・為替リスクは、金融市場の変動によるリスクであるが、原材料仕入価格や商品販売価格などの変動、また不動産や金融商品などの資産価格の変動によるリスクと合わせ、市場リスクと呼ばれている。

◇

金利・為替レートの変動は、①資産価値の下落②負債価格の上昇③将来の収益の減少④将来の費用の増加を通じて企業価値にマイナスの影響を与える。

金利・為替リスクは金

リスクマネジメント

ABC

金利・為替リスク

市場リスクの例

	資産価値の下落	負債価格の上昇	収益の減少	費用の増加
金融市場	- 円高による外貨建て債権の価値下落 - 金利上昇による金融商品の価値下落	- 円安による外貨建て債権の価格上昇 - 外貨建ての価格上昇	円高による外貨建て売上金額の減少	- 円安による外貨建て仕入金額の増加 - 金利上昇による支払金利の増加
実物市場	不動産価格の下落		商品販売価格の低下	- 原材料仕入価格の上昇 - 不動産賃借料の上昇

融市場の変動によるリスクであるため、それをヘッジする金融市場(いわゆる

契約時点で決めておくもので、例えば、外貨建ての買掛金について、その

後の為替変動により1ドル120円となったとしても、現時点のレートである1ドル110円で決済できる仕組みである。

このようなデリバティブ取引は、金利・為替リスクのマネジメントに有効であるが、それ自体リスクを抱える取引である

ゆるデリバティブ市場)も整備されており、リスクを財務的にマネジメントしていくことが可能となっている。金利・為替リスクをヘッジする手段としてのデリバティブは、取引形態により、先渡し取引、先物取引、スワップ、オプションの四つに分類される。このうち、先渡し取引は、将来のある時点で決済する価格をスクのマネジメントに有効であるが、それ自体リスクを抱える取引である。このようなデリバティブ取引は、金利・為替リスクのマネジメントに有効であるが、それ自体リスクを抱える取引である。

ため、ヘッジ対象となる為替や金利の取引を上回るデリバティブ取引を行えば、投機的取引となる。特に一般事業法人においては、金融取引を行うのは財務部門など一部の部署に限られているため、チェック体制が効かず、一部の担当者の不祥事により多額の損失を計上するケースがある。過去には、石油会社が本来の原油輸入価格のヘッジのために行った為替先渡し取引を、投機的取引化させてしまったために、1000億円を超えるような巨額の損失を計上させた例がある。デリバティブを活用した金利・為替リスクのヘッジ取引に関しては、取引ルールの設定と管理部門によるチェック体制の確立が不可欠である。

四つの取引形態で分散

(日本総合研究所)